

時の恋唄

Saitō Yōko

齐藤 耀子



発行 日本図書刊行会
発売 近代文芸社

時の恋唄

Saitō Yōko

斉藤 耀子

江苏工业学院图书馆
藏书章



とき こい うた
時の恋唄

1997年5月10日 第1刷

著 者 斉藤 耀子(さいとう・ようこ)

発 行 髙日本図書刊行会

発 売 髙近代文芸社

〒112 東京都文京区目白台2-13-2

TEL (03)3942-0869

FAX (03)3943-1232

印 刷 信毎書籍印刷株式会社

製 本 小泉製本所

© Yōko Saitō 1997 Printed in Japan

定価はカバーに表示してあります

ISBN 4-89039-465-6 C0092

落丁・乱丁本はお取り替えいたします

時の恋唄
／
目次

詩の章

蒼風	8
港は夕暮れ	12
遠い昔に忘れた話	16
レクイエム	18
川のある風景	20
光と風のように	24
さらさらと	26
ライオン悲歌	28
秋雨挽歌	32
雨の唄	34

アップルパイの話	36
とんぼ	40
挽歌	42
詩心 ^{しごころ}	44
野心	46
つくし	48
貝殻の行方	52
時のパノラマ	56
故里憂愁	60

短歌の章

凍野	117	花占い	65
ロンリープレイ		無言劇	71
	111	刺草	79
時雨	105	時の恋唄	85
石塊	99	いずこへ	91
		相聞	96

拾遺	165	初期歌篇	
		短調の夕	143
序曲	159	青の韻律	153
		異邦人	135
		風はいつしか	129
		客 ^{まろ} 人 ^{うど}	123

有隣堂のサン・ジヨルデイ応募作品

短歌の部

177

ポエムの部

178

サン・ジヨルデイに

178

二つの風景

180

春の日

182

バラード

184

あとがき

187

時の恋唄

詩の章

蒼 風

若い日は金色をして

心のアルバムに納まっている

ひたすら生きた時代は

アルバムを開くことさえ忘れて

日も月も過ぎて行つた

そして幾十年……

青春期 私達は

同じ想いに憧れていた

夢で終わって欲しくない

真摯で確かな志

遙かな空を睜めながら

恋人とそのグループが

小さな船で乗り出した

文学の海へはろばろと

私もいつかは漕ぎ出そうと

至福のうちに憧れていた

はぐれて一人

なかば絶望しながら

志を貫いて今

追憶の詩をうたう私に

静かに風が巡る

そして つと

心のアルバムが開く

ああ 燦然と光溢れ

胸に弾ける想い

忘れる筈もない

私は詩人だった はじめから……

想いを共有した友人たち……

ならば良いではないか

たとえ暫し不遇でも

開いたアルバムの中から

金色の時間が流れ

空色の時空を満たす

港は夕暮れ

港は夕暮れ

答える者の無い無限の問いかけ

彼らは何処へ辿り着いたのか？

あの日 出航した船は何処へ？

乗り遅れた私が

永遠に困難な模索

おののきながら開花するバラ

情熱とはにかみ

文学は憧れかつおののき

彼らは文学の海へ乗り出し

乗り遅れた私は

いつの日か

共に航行する想いを秘めて

船は何処まで行つたのか？

とうに難破して果てたのか？

一人はぐれて流浪の末に

故郷ふるさとに来て時は移ろう

噂も届かず 老いた目に

夜空の星の冷たい光

永劫とこしえのわが夢かと

彼らは何処へ辿り着いたのか？

答える者の無い無限の問いかけ

永遠に彷徨う魂が
捉え続ける鮮やかな
あの日の出航

港は夕暮れ
もう何も見えない